

新路

発行責任者
中野区新井町549
織本外科病院長
尾尾信之

原稿募集

ささやかな病態ニエースに皆さん
の苦を求めます。何でも結核です
から原稿をお送り下さい。

胃腸科を新設

開腹例はすでに二三五五名

過去三十年間胃腸外科としてやってきた織本病院は、今度、院長・副院長に加え、て東京医科大学のレントゲン科に五ヶ年の研究を積まれた今村敏春先生を迎えて、特に胃腸のレントゲン診断に完璧を期することになりました。

すでに開腹前例は実に二、三、五五人の多きに達して、います。これは胃癌、胃潰瘍をはじめとして大腸癌、腸捻転、腸狭窄、虫棘突起炎、腹膜炎の總計で、今後この

の方面で活躍する意気込みであり、現在の呼吸器科診療室を併用して行なう予定で、すでに胃の透視、撮影について万端の準備がととのえられております。

蛍光板

◆...部会議員の返取金が一人十七万円にきまつたそうだ。二十六年度予算では結核対策費と名のつくものが七十五億円とある。

◇...これは予算總支出額の驚くなかり一、一%で、二五〇

加配米がきます

「指定許可される」

かねて待望の給食病院指定は三月三十一日附で当病院にも許可された。給食病院に指定されると患者一人当り一月約一合の主食と月半斤の砂糖の加配があるほか、味噌、醤油、油等の配給が

万人の結核患者にわりふると、一人当り一年向三千元なりということになる。正とモモグラシーをモット

◇...戦争と貧困のおかげで「結核」とりつかれた人がいままたデッド・クロスにつき当りそうになっている。危い哉、危い哉

ある。この結果一日二食茶飯も配給だけで実現できることになり、今後は完全給食をめぐし食争凶害の充実に力をそそぐつと関係者一同はりきつてゐる。



在院患者数(定員三〇名)

結核 その他

病 月始 一、二名 三名

院 月末 二〇名 五名

手術施行数

胸廓成形術 一五名

胃瘻切開術 一名

腸閉塞切除術 一名

虫垂炎切除術 四名

脱腸整腹手術 一名

外未患者死数

一般患者 四八七名

結核患者 一三五名

入院待機患者 九名

新しい手術法

ゴム管一つが

恢復に決定的

腹膜炎の場合

急性の腹膜炎は殆んど虫垂炎(盲腸炎)が破裂して起るものです。今までの手術法では大てい虫垂を切りとった後に、太いゴム管を突つこんでウミを出すのですが、そうするとその排膿の穴は、ふさがるのに一ヶ月以上かかりますし、ひどいものになると六ヶ月も一ヶ年もかかります。あけくの果てに癒着を起して悪くすると後日腸捻転となります。これに対し、最近私の病院でやった例を紹介すると、同腹時に吸引ポンプで充分に膿を吸いとって、

お腹の中をきれいにして細い導尿管のゴム管を入れるのです。そのゴム管を通じて、毎日十万単位のペニシリンをお腹の中に流し込みます。それは手術後下熱して痙攣が普通に出る様になるまで大体五日から七日位かかります。痙攣を見計ってゴム管を抜くと、元来細いものですからすぐ穴はふさがります。こうするとかーぜを交換する様な痛みもなくお風呂も二週間たてば入れるという訳です。

(副院長)

怖いのは最初だけ

成形手術の感想

五号室・文納夫人談

四方山

はな 就職あつせん

—新卒生諸君、たのま本族に於て小使一名募集しております—

〇〇大学厚生課

苦 荷

最初はとて不安心でした。主人が手術台にのせられて背中をヨリチンとぬらされて、左のすき間から見た時には目頭がジーンと熱くなつて思わぬ涙があふれてしまいました。

—ぞんなに、見つめたりすかしたりしないで運動!

四月九日

四月バカ

—わが党の議員は皆々、一切の選挙がハツカクした道ちに地下にもぐれ—

ある夜の錯覚

自由党

怖ろく—ギョッ、お前天然痘じゃないのか? 女考—ナニいつてんのさ、ニリヤアバタだよ。

告知板

⑩ こんとバス(バスチルノサルナル酸)の薬価料が民生でとれることになりました。マイシンは割当不足で外未患者には当分の間中止していただきます。

た。けれど一回目がすんだあとにはすっかり安心しました。二回三回目の手術の時には何の不安もありませんでした。これから手術をうける方に安心しておうけなさいと今は心からいうことができそうです。

一生に一度の手術ですから怖いと思うのが当たり前ですが、このように全部の人が「受けてよかった」と思っています。身体をかたくしたり、必要以上に苦痛を訴えたり、かえって手術がやりにくく、一板状態も悪化するものです。



療養所物語より

副院長 織本正慶

結核というこの致命的な、もつとも悲惨な病から人間を救つてゆこうというところがいかにも困難で、いかに多くの問題を含んでいるかというところは私が国立療養所のK病院で或打又二の織本外科病院で日々感ずることである。即ち結核病学とか、結核外科という様な医学の領域だけではとても解決出来ない社会問題が、数限りなくあるのであつて二〇〇人近い結核の手術患者を出したこの病院も、今年こそは結核という社会問題にも真正面から取組んでゆこうと決意してゐる筈である。手術が出来ず患者は再生の希望に遠ざかっているが手術もできない人は既に茶落の底である。手術を中心にしたこの差はあまりにも大きい。

(病巣の悪化)を起して入院した時は既に何の処置も出来ず、そのまま自分の運命を呪つて亡くなつたK病院に於ける最も悲惨な少女の物語である。これはこの少女の体面が悪いといえは、それまでであるけれども、「手術の適応者」といふ喜ぶべき刻印を押されてから四ヶ月持たぬは手術をしてみらえなかつたという国立療養所の機軸に如何かしろ大きな欠陥を思ふのである。

X X X X X

私が才十六病棟の主治医になつた時に一番悲惨な印象を受けたのがこのIという患者さんだった。十六病棟は軽症ゆゑにが膾炙重い人も沢山いた。そうして全部で四十五名の女子病棟であ

保健同人

4月号

入局を待つ人々へ 足立 茂

タマ抜き成形 小野 海

「安静のぬうち」を語る 政原 茂一、岩崎 隆和、久留 幸男

私はこうして再起した。《体験記》

保健会議

4月号

本 フロンベの悲劇 ☆

11例の肺切除：膈にほうむられた犠牲者-----：

《結核はなめられている》

『本号には“基礎疾患について”当院副院長も執筆しております』

った。私が初の回診をした時に「あなたはどういう経過をとつてきたのですか」とレントゲンのフィルムを見ながら聞くと患者さん達は日頃の訴えを細々と私に話したものである。中には小さな手帳のメモを読みあはる人もいた。

重症者は大抵個室にいた。西側の最初の個室をあげる頃のことだ。目の奥に光る様な感じを受ける女性が入った。それがIさんだ。入った瞬間に既に末期的な必死のを感じた。レントゲンととりあひると「絶望」とはつきり断定した。両側の肺は粉雪とボタンの雪が降りそそいでいる様だ。つたから――。私、診療所の医者にとつ

ては絶望者は治療の対象にならなかつた。もしかしたら良くなるかも知れないという患者から上か、学術的な興味から云つても、社会的にも治療の対象となるものだった。だから絶望的な重症者はズトレラストメインもバスも狭つて貰うことは出来なかつた。

可 入院したとき

もう駄目でした……

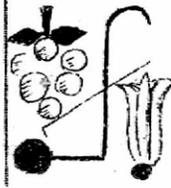
私はレントゲン写真を見ながらその中からは死期の判定しか出て来ない事を再び感じた。「先生！」「そういふ声に私は土色をしてしている彼女の顔を見た。「私は手舞脚心の患者として短期入院を許可されたん

春夜

赤みきえ 細くなつたゆびさきを
かそかにみつめていた冬であつたが
ぬくぬりのこもつた夜の風

です。……それから四ヶ月間に入院を待ちました。その間にシユームを起して入院した時はもう手術は駄目でした。
Iさんは息切をこらえて「病院は可哀そうだからってマインをその時四十本狭つてくれたんです。でもちつとも利がなかつたんです。……」
私は目をそらしてヤサキに上り下りしている体温表と喀血の赤の記号を見つめ

ふとひろけた私の手が
いまではほのかな血色をおびて
春の息吹きをとりゆとして
いる
こじま
としひろ



た。
「先生!! 私はずうしてこんなになつたんです。もう駄目でしょう。……」
咳が出て……それでも飯だけは食べなくちゃと思つて無理に頑張ると、もう吐気か来てしまつて……
私は苦しそくに訴えるのを目で制した。そうして御飯の美味しくなる薬を処方してあげることを約束して部屋を出た。

冬がくるまで膀胱の痛みが

Iさんを苦しめた………

Iさんの病状は夏が過ぎると悪くなつていった。――

秋の日が高く上るのを待た。趣症の人達は歩いて静かな療養所の周囲を散歩した。趣症の人達は歩いて静かに草をつんだり、私に若核外科の話を尋ねたりして、

そうしてその中で一番私に嬉しく感じたのは、彼が産が私の積極的な外科的治療に最初はいささか死にぞろをしたけれども今ではその中から明るい希望を感じている事を話してくれた事だった。

散歩から帰ると私はIさんを見舞った。そうして今散歩から帰ってきたというと

彼女は久しぶりに明るく微笑して、美しいけれどお話しだけでも楽しいと言った。

もう死ぬまごそんな思いは出来ないと云った。

・X X X X X

秋が深くなると同じにIさんの病気が悪化した。ある時、私が部屋に入つて行く

と、顔をしかめて「膀胱が痛くつこ、こつこや

つて産をふんはつていな」と膀胱が飛び出しそうなんです。



Iさんの尿中に結核菌が出ていることは私も知っていたが症状として膀胱結核の痛みがこんなに強く出てくるとは予断していなかった。冬が来る迄膀胱の痛みが

Iさんを苦しめた。十二月に入ると激しい咳が出て来た。咳はとめどなく出た。咳止めは少しの効利いたが向もなく利かなくなつた。薬を段々増量したが咳は反

対に益々出た。Iさんの部屋の前を通るとその咳がファンガンと私の耳に響いた。私は中に入る事も出来なかった。これは喉頭結核と気管枝潰瘍の咳だった。如何にも悪く激しく息の振を止めない限り止りそうになかった。

やっぱり生きよう という意志を

しはらくすると今度は尿が出なくなつた。そうして尿管で導尿しながら尿を出した。私は何かしら末期的な症候群がIさんを襲つてきたことを感じた。

Iさんも苦しがつたのである。うが外科医でありながら何事もし得なかつた私も腹分衰念だつたし苦しがつた。

醒めたりカづけたり御飯を
無型に食べなさいと言つた
り、そんな事しか出来ない
外科医を私ははじめて経験
した訳である。

私が部屋を見舞う度に「さ
んは「すみません、お手致
かけまして」と必ず言つた
そうかと思つと「先生！
私は四ヶ月も待たないで手
筋すしは決してこんなにな
らなかつたでしう？ 私
はもう駄目ですわ……私
は初めからさういふ運命だ
つたんだわ、こんなに一生
懸命御飯を喰べようとした
つて無駄ね……先生！ 解
剖して下さい、早く」と興
奮しながらじやべり続けた。
私はまどかに受け答えが
出来なかつた。カづける事
があまりにも遠善的に思え

たし、何か言い出すと彼女
と同じ様にとりとめがなかつた。

私は「さんがいつもの様
に自分の運命を呪うのに対
して面きざらくて

「そんなにあなたは自分の
運命を呪つてはいけません
私はあなたを慰めたつては
方がないけれど、やはり生
きようといふ意志を、これ
はまあ肉体的なもの以外で
もさ、持ち続けていなければ
は何かしら強い気がするん
だけだ——」

随分むづかしく自分でもは
つきり解らなかつたが私は
そう云つた。「さんも解ら
なかつたと思つが、それで
も彼女は静かになつて二度
と私に解剖してくれなると
いひなかつた。

少量の麻薬が

「Iさんの死顔を……」

十二月の半は五週すると寒
さが強くなつてきた。その
頃から「Iさんに強い呼吸困
難がやつてきた。それと同
時に頭も少し狂つてきたよ
うだつた。依然として咳止
め薬と鎮静剤が授与され続
けていた。十二月の廿三日
は私の当直の日だつた。
その日の夜から「Iさんの呼
吸困難はひどくなつた。私
は最後を感じたが強心剤と
酸素吸入を連絶的に使つた。
夜半の三時に私は起された。
「Iさんは胸をかきむしつて
苦しがつていた。
私はもう「Iさんだと思つ
た。

そうして少量の麻薬を使つ
た。かほそくなつた体には
麻薬が良く利いた。

「Iさんは固ゆなく静かになつて朝の七時迄寝た。さうして七時半に死んだ。

その日は寒い朝だつた。
私がかけた時はすでに
麻薬が「Iさんの死顔をどれ
だけ安らかにしたかと、そ
うしてそれだけが私の彼女
に対する最後のしかも唯一
の治療だつたと思つた。



日曜診療はじまる

レントゲンの結果もその場で解り、その場で正しい診断が下さいます。

当院で毎週行われてゐる日曜無料診療及健康相談は、結核と慢性胃腸病を対象としたもので、今年になつてから、意識的に計画されたのでした。ささやかな院内掲示だけであつたにも拘らず、回を重ねる毎に増してゆく患者数に、私たちは嬉しい悲鳴を挙げております。X線写真撮影の方は、副院長から病状の経過、経過の説明を受け、各人の療養方針が次まります。X線写真のない方の診断にはX線透視ないしは直ぐ撮影及び現像が行われ、赤沈価、病歴

三月	四日	一〇名
三月	一日	一五名
三月	一八日	一八名
三月	二五日	一七名

家族感染とは

—Kさんの場合

結核をなくすために一番考えられるのは家族感染の回避です。Kさんけ現在当病院に入院中の患者さんで、成形手術を終つてもう退院を待つは

はかりですが、この人の病源をさぐつてみますとおきらかに奥さんから感染してきます。その奥さんが罹病したのはこれまた家族感染で奥さんのお兄さんと妹さんが結核でなくなつています。奥さんの弟さんゆついで先達で診療の結果結核の診断を下されました。現在Kさんの三人の子供のうち二人が肺浸潤という診断をう

副院長の巻



一本 啓上
敬本病院の御曹司で、ある彼は、国立療養所海濱病院の医師を兼ねて連日連夜、結核とたたかつてゐる。朝早く、病院中をめぐりながら、遅刻だ遅刻だとキョセに向つてはく進してゆく姿はまさにス

けています。幼児結核の恐しさはいうまでもありません。このような例は決して珍らしい例ではありません。皆さんも御自分の身のまわりをふり返つてみて下さい。そして家族感染の不幸な犠牲にならないように家族の人たちにツベルクリン検査をしてその結果B.C.Gをうつとが写真きとつて早く処置をすとかすぐにとりかかつて下さい。

ポイントマンである。若きテクニシアンとして社会的にも認められ、とくに女性の患者から崇拜されてゐるらしいのは、どういふ余蘊があるのかしら。これから胃腸の方もはりはりやりたいとのこと。人間、病をもちつ向は幸なりである。

思ったよりお元気でした

むづかしい眞向女め

春が訪れてきました。仕事をもっている私たちでさえ、都庁におさまっているのは困難ですが自宅療養者の皆様はなおさら春の野に飛び出してゆきたい気持ちになさることでしょう。

私をはじめに家庭訪問したKさんは思ったより元気でした。安静の点はだいたいの良いと思いましたが指し示すことに日光、消毒、衛生等に対して知識のかけられているところが、けられませんでした。とくに幼児と一緒に寝ていることは注意を要すると思われました。散歩などの程度したらよいかとか、幼児のツベルプリン反応をど

うしたらしてもらえるかとか、ハシカの手防及処置などについて専門をうけましたが、どんな専門にもこたえられないような知識をやしなひ、ますます良い訪問をつづけたらと思えます。

(徳野 静枝)

急募!!

◇……当病院の看護婦一名兼月中に、かしくの良をあげますので、至急補充しなればなりません。明らかな近代的感觉をもつた看護婦さんを御紹介下さい。×切四月十五日

(事務長)

患者だより

○……昨日はわざわざ家庭訪問をいただきありがとうございます。ひさびさで朗らかな看護婦さんの姿を覚えてうれしく思いました。ほんとうにありがとうございました。新啓発刊おめでとがとう。文面に政治色のないのが好感もてました。「告知板」、「病院通信」、「患者だより」等々我々の知りたことばかりです。できぬことは、栄養の点について知識の不足な我々のために季節を利用しての栄養料理の献立をのせてほしいと思えます。それから医学用語の解釈を一つづつでも良いからのせて下さい。

(中野区 川崎町 静雄)

○……こんどはとんでもない失敗をしてしまい申し訳ありませんでした。術後まだ五ヶ月なのにアパートに住んでいる関係上、落着いておられないの、人の出入が多く、減つて問題が多いのでつい動きすぎたのが失敗の原因でした。折角先生に困難な手術をしていただいたのに、そしてその後の安静も無駄にしてしまったわけでは残念でなりません。一取日、神奈川の療養所へ入りました。

(横浜市、岡田昭二)